



を開催し、住民と市役所の距離を縮める努力を重ねていきます。

本庁と総合支所の連携強化と地域の課題の解決に向けて

チェック 取り組みの内容

合併により、周辺部が衰退するのではないかと懸念に
対応するため、旧町村役場を総合支所として存続し、4課1分室体制とし、地域振興機能やほとんどの行政サービスを提供する地域の拠点としました。

また、合併地域の振興と諸課

題に対応できるよう、新たに専任の副市長を置いて本庁の執行体制を充実させました。

さらに、本庁と総合支所間の連携を緊密にするため、「支所長会議」を、月2回開催していただきます。支所長は市長をはじめとする幹部の会議にも出席し、本市の課題や取り組みなどの情報の共有を図り、総合支所を総括しています。

チェック 評価

合併直後は、通常業務に加え、合併の移行事務や災害対策などの業務が重なり、職員は、試行錯誤のなかで業務を遂行してき

地域のみなさんの健康のよりどころとして

岡本 勝さん

おかもと・まさる 32歳
佐治町加瀬木



昨年4月から、佐治町国民健康保険診療所の医師として赴任しています。合併するまでは、診療所がなくなるのではという不安がありましたが、多くの方々のおかげで存続することになり、患者のみなさんも喜んでいらっやいます。さらに、以前は診療所でしか受けることのできなかつた健康診査が、市内のどこでも希望する場所で受けられるようになり、便利になったという声をよく聞きます。また、多くの人に診療所をより身近に感じていただき、存在意義を理解していただくため、「診療所だより」の発行を始めました。一方、予算面での不便さは感じますが、質の向上を図りながら、いろいろな面での無駄を省き、経費を節減するいいきっかけになったのではと思います。将来的には市立病院との連携をさらに強め、充実した医療に努めたいと考えています。



鳥取は暮らしやすいまち

橋本 開さん

はしもと・はるき 鳥取環境大学4年
大覚寺

旧鳥取市内で生まれ育ちました。田舎過ぎず、都会過ぎず、とても暮らしやすいまちだと思っています。母が福祉関係の施設に勤務している関係で、合併して、利用者の方が広範囲にわたって施設が利用できるようになり、便利になったと聞いています。

自分自身の生活に大きな変化はありませんが、標識を見て、鳥取市も広くなったのだなと実感します。市報を読むと、旧町村の記事が掲載してあり、大きくなったと感じますが、一つの市になったという一体感があまりないように思います。普段の生活の範囲が、旧市内に限られているからかもしれません。大学卒業後は、県外の専門学校へ進学する予定ですが、就職時は鳥取へ帰ってくるつもりです。県外へ出るまでの間、合併して大きくなった鳥取市を、もっともっと探索してみようと思います。

ましたが、本年度に入り、本庁、支所間の連携はおおむね順調となり、安定して行政サービスを提供しています。

特に、今年4月の河合谷牧場の土砂崩壊で発生した「袋川の濁水問題」、6月の「用瀬町家奥の濁水問題」など、総合支所管内に突発的な事故などが発生した際は、担当副市長をトップとして関係部・課長、支所長による「緊急対策会議」を開催し、迅速に対応してきました。

総合支所の業務上の課題については、その都度、幹部会議や支所長会議で、その対応や措置

内容を協議し、業務の円滑な運営に努めています。

チェック 今後の課題・取り組み

- ▼各総合支所に共通する
 - ▼マイクロバスの運用と民間バスの代替・活用策
 - ▼保健センターと保健事業のあり方
 - ▼公民館のあり方と職員配置
 - ▼成人式の開催方法
 - ▼消防団員の確保
- の地域課題などについて、検討を進めています。マイクロバスの運用については、12月1日から運用基準を設け、運行の効率化・利用の拡大を図ります。そ